

米子工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	校外実習
科目基礎情報						
科目番号	0035		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	特になし					
担当教員	稲田 祐二,玉井 孝幸,北農 幸生,前原 勝樹,金澤 雄記,小椋 弘佳,高増 佳子,西川 賢治,天野 圭子					
到達目標						
企業等での実習を通して、技術者としての社会人を経験・認識し、今後の学習や将来の進路決定に役立てる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
技術者としての社会人を経験・認識できる	先輩社員ともコミュニケーションよく積極的に取り組んだ		先輩社員の言われたことはとくかく一生懸命できた		先輩社員の言われることをあまり理解せず、積極性も低い	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 C-1 学習・教育到達度目標 C-2 JABEE g JABEE h						
教育方法等						
概要	学校と異なった環境である企業等での実務を体験し、これまでに修得した知識や技術を再認識するとともに、今後の学習に役立てる。さらに、技術者・社会人としての自覚を養う。					
授業の進め方・方法	学校での授業や実験実習は誰もが同じことを学習するが、校外実習は受け入れ企業毎に内容が異なるので、自分一人で勉強することになる。したがって、企業等の実習に参加する前に基礎教科を復習しておくことが大切である。					
注意点	休まず遅れずまじめに参加すること。 ・ 校外実習はアルバイトではない。就業体験を通しての勉強である。 ・ 服装、髪型、態度等については、学生らしい好感を持たれるように、充分自覚して行動すること。 ・ 企業等への往路・復路の移動も慎重に事故の無いように心がける。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	実習希望の意思を各学科の担任に伝える	目標の実現に向けて自分の考えをまとめることができる。		
		2週				
		3週	募集案内を参考に実習先企業を考える	必要な情報を収集し、計画することができる。		
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週	夏休みまでに実習先企業をきめて連絡する	目標に向けて計画し、必要な行動をとることができる。		
		12週				
		13週				
		14週	8月中旬から9月にかけて1週間以上の実習に参加する	自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。		
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週	実習報告書をまとめる	実習の目的、内容、成果をまとめることができる。		
		2週				
		3週	報告会で報告する	実習の目的、内容、成果を発表することができる。		
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週	実習報告書の清書データを提出する	必要な行動をとることができる。		
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週	進級認定会議で認められたら1単位となる			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1	後16

				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	後16
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	2	後16
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	2	後16
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	2	後16
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	2	後16
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	2	後16
				合意形成のために会話を成立させることができる。	2	後16
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	2	後16
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	2	後16
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	2	後16
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	2	後16
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	2	後16
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	2	前1,後16
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	2	後16
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	2	後16
				複数の情報を整理・構造化できる。	2	後16
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	2	後16
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	2	後16
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	2	後16
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	2	後16
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	2	後16
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	2	後16
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	2	後16
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	2	後16
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	2	後16
				目標の実現に向けて計画ができる。	2	後16
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	2	後16
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	2	後16
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	2	後16
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	2	後16
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	2	後16
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	2	後16
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	2	後16
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	2	後16
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	2	後16
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている。	2	後16
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	2	後16
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	2	後16
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	2	後16
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	2	後16
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	2	後16
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	2	後16
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	2	後16
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	2	後16

				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	2	後16
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	2	後16
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	2	後16
				企業には社会的責任があることを認識している。	2	後16
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	2	後16
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	2	後16
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	2	後16
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	2	後16
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	2	後16
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	2	後16
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	2	後16
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	2	後16
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	2	後16
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	2	後16
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	後16
				要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	2	後16
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	2	後16
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	2	後16
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	2	後16

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	100	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0